

寄り添う医療で 地域の皆さまを支えます



医療法人社団

地域医療支援病院

宇部興産中央病院

2023年4月10日
おかげさまで

開設70周年

これからも みなさまの笑顔と共に



宇部興産中央病院 開設70周年記念



院長
西崎 隆文

宇部興産中央病院は1953(昭和28)年に開設され、今年の4月に70周年を迎えました。当時「死に至る病」とされた結核が流行し、結核診療所「宇部興産サナトリウム」としてスタートしました。気候が温暖で日当たりの良い周防灘を望む西岐波

に、全国で初めて鉄筋コンクリートブロックの病院が建てられました。1966(昭和41)年に現在の「宇部興産中央病院」に改名し1981(昭和56)年に総合病院として承認されました。療養病棟、健診センター、脳疾患治療センター、消化器センター、救急センター、ハイケアユニットを開設し、2014(平成26)年に独立法人化。2017(平成29)年に新病棟をオープンし救急センター・手術室・脳神

経外科・外科病棟を移転しました。

当院はこれまで、高齢化社会で増え続けるがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病など、国が推進するいわゆる「5疾病」を中心に、専門性の高い治療や救急医療体制を整え、地域医療になくてはならない中核病院として発展してきました。より良い医療を提供して社会に貢献するという使命を果たすため、70周年を期に病院機能をさらに充実させていきます。5月に新たなMRI装置を導入し、脳ドックの新コース、無痛MRI乳がん検診(7月予定)、全身MRIがんドック(10月予定)検査を開始します。コロナで休止になっていた患者さんや地域の方へ向けた院内演奏会「コスモコンサート」の再開も計画中です。これからも皆様から親しまれ信頼される優しい病院を目指してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

令和5年(2023年)4月10日

宇部興産中央病院は開設

宇部興産と医療の沿革

明治 30年 (1897年)	沖ノ山炭鉱組合設立
大正 3年 (1914年)	炭鉱労働者を対象に沖ノ山炭鉱医局、同年 沖ノ山病院と改称
9年 (1920年)	沖ノ山同仁病院と改称
昭和 22年 (1947年)	山口県立医学専門学校(現山口大学医学部)へ移管(寄贈)
28年 (1953年)	結核診療所「宇部興産サナトリウム」を開設
33年 (1958年)	がん治療の目的で科学技術庁第1号のコバルト60治療装置導入、放射線治療開始
34年 (1959年)	脳外科を開設(山口県下で初)
41年 (1966年)	「宇部興産中央病院」と改名
43年 (1968年)	新病棟4F建設(現別館)
51年 (1976年)	結核病棟の廃止
51年 (1976年)	東病棟8階完成
52年 (1977年)	頭部CT装置導入
55年 (1980年)	医事業務のコンピューター化
56年 (1981年)	総合病院の承認を取得
59年 (1984年)	夜間救急実施
平成 1年 (1989年)	外来棟改築(第I期)診療棟完成、MRI、新鋭CT、血管撮影装置
2年 (1990年)	外来棟改築(第II期)本館西完成、外来棟全工事完成
2年 (1990年)	カルテ集中管理システム、自動再来受付、外来オーダーリングシステム導入
3年 (1991年)	宇部市医師会との病診連携開始
9年 (1997年)	療養病棟および健診センターを開設
10年 (1998年)	臓器提供施設に指定
12年 (2000年)	(財)日本医療機能評価機構の認定を取得(Ver.4)
13年 (2001年)	脳卒中センター開設
14年 (2002年)	透析センター開設
15年 (2003年)	臨床研修病院に指定
15年 (2003年)	療養病棟を増設、救急センターを拡張
16年 (2004年)	消化器内視鏡センターを拡張
17年 (2005年)	(財)日本医療機能評価機構の認定を更新(Ver.5)
18年 (2006年)	回復期リハビリテーション病棟開設
18年 (2006年)	亜急性期病床設置
20年 (2008年)	亜急性期病床増床
21年 (2009年)	DPC病院へ移行
22年 (2010年)	(財)日本医療機能評価機構の認定を更新(Ver.6)
23年 (2011年)	ハイケアユニット開設
23年 (2011年)	災害派遣医療チーム(DMAT)の指定
24年 (2012年)	80列CT導入
24年 (2012年)	ハイケアユニット病床増床
26年 (2014年)	亜急性期病棟から地域包括ケア病棟へ変更
26年 (2014年)	医療法人化(医療法人社団)
27年 (2015年)	地域医療支援病院承認
27年 (2015年)	(財)日本医療機能評価機構(3rdGVer1.1)の認定を更新
28年 (2016年)	脳卒中センター増床
29年 (2017年)	新棟完成
29年 (2017年)	脳卒中センターから脳疾患治療センターへ改称・増床
30年 (2018年)	スポーツ・関節鏡リハビリセンター開設
31年 (2019年)	新棟4階開設
令和 2年 (2020年)	病院耐震工事に伴う病棟再編完了
4年 (2022年)	(財)日本医療機能評価機構(3rdGVer2.0)の認定を更新



VOL. 109

2023.04 記念号

地域連携室のイメージ花 「たんぽぽ」

たんぽぽの花こぼれは「真心の愛」「明朗な歌声」幸福を知らせる花、綿毛が地域連携の歌声です。自ら風にのり、地域の中に飛んでいき、地域に医療連携の種子を広げていく…そんな思いを込めた広報誌です。

〔病院理念・方針〕

いつでも誰でも
安心してかかれる中央病院
常に使命感を持ち
協調して行動する中央病院

- 一、 医の論理と良心に従い、より良い医療の提供と医療安全に努めます。
- 一、 患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、患者満足度の向上に努めます。
- 一、 地域の中核病院として関係する地域医療・福祉期間との連携に努めます。
- 一、 経営の健全化と職員満足度の向上に努めます。

〔発行〕

地域医療支援病院



医療法人社団
宇部興産中央病院
地域連携室

宇部市大字西岐波750番地
TEL(0836)51-9421

70年を迎えました

宇部興産中央病院の誕生まで

出典：「宇部興産創業百年史」[中安閑一傳]

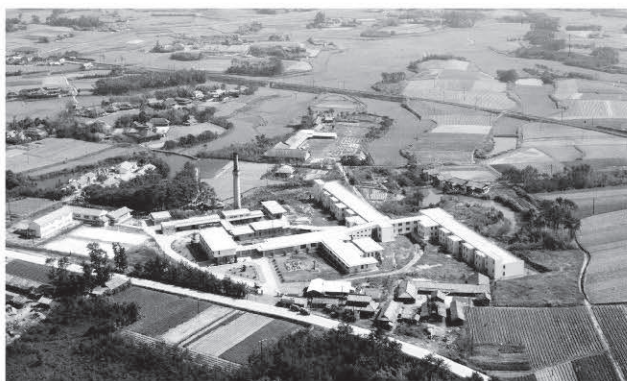
昭和20年代前半のわが国は、食糧難に伴う栄養不足や医療体制の不備により「死に至る病」とされた結核患者が多数に上がった。昭和25年4月末の当社の従業員数は炭鉱関係を中心に、19,646人に達し、その家族を加えた結核患者の発生は多数に上がった。

沖ノ山、東見初、本山、西沖ノ山、山陽無煙の鉱業所(炭鉱)の病院や工場病院は、患者の治療に全力を挙げて取り組んだ。しかし、施設や体制が整っていなかったため十分な治療ができず、昭和25年末に当社の俵田、中安、岡田などの首脳部はすぐに医療施設サナトリウムを整備する方針を固めた。

当時、日本にこの種の専門病院をもつ企業は少なく、三井鉱山(田川)にその例があるのみで、八幡製鉄所もまだ構想の段階であった。

設置場所は、気候が温暖で空気がきれいなこと、日当たりなどの立地条件を考慮し、周防灘を望む風致にとんだ西岐波の高台、今の中央病院の地を選んだ。せっかく専門病院を建てるからには施設を充実するために、昭和26年の一年間は全国の主要病院の調査や計画の肉付けのために充てられた。

病棟は当初木造を計画したが、首脳部の指示で全国でも初めての鉄筋コンクリートブロック構造とした。



宇部興産サナトリウム(昭和32年)



手術状況

竹中工務店が中心となって昭和27年3月に着手し、翌年の28年3月、第一期120床が完成し、4月10日から開業した。第二期130床は27年11月に着手し、28年8月に完成を見た。

結核療養所としての機能のほかにも、内科、外科、耳鼻科、歯科を備えた。定期身体検査と称していた健康診断にも力をいれ、結核の早期発見、早期治療の方針が功を奏し、ベッドの回転率は他の国公立の療養所とは比較にならない程の高さであった。昭和30年5月に運営母体の「社団法人宇部興産サナトリウム協会」を解散し、宇部興産が直轄運営する「宇部興産サナトリウム」と変更した。

そして今年で満70年を迎えた。



現在の姿



現在の手術

5月導入の **新MRI装置** について



当院には現在、3.0T(テスラ:磁場強度の単位)と1.5Tの2台のMRI装置がありますが、この度1.5Tを最新のMRI装置に更新しました。MRIの1.5Tと3.0Tは検査部位や対象疾患による得手不得手があり、当院のように様々な疾患を対象とする病院では両方を揃え、使い分けることが理想です。新装置の特徴は以下のとおりです。

1 検査のストレスを低減

今回の機種は

- ・大きな開口径で圧迫感が少ない
 - ・音が小さい
 - ・検査時間が短い
- と、ストレスが少ない装置となります。



4 新検査「DWIBS」の開始

全身拡散強調画像(DWIBS)は、PETに近い画像が得られ(下左)、がんの経過観察や転移の発見に非常に有用で、健診では「全身MRIがندوق検査」や「無痛MRI乳がん検診」を始めます。特に、「無痛MRI乳がん検診」は、検査着を着たままベッドにうつ伏せになって行い(下右)、痛みも全くない上、乳がんの発見率も高いので、安心して優しい検査です。

2 患者さんにやさしい「AIRコイル」



頭部以外のほとんどの検査は「毛布のように」軽くて柔らかいコイルを使用しますので、不快感が低減されます。



3 優れた画像再構成技術

ディープラーニング(DL)により、高画質な画像が得られるようになります。また、一回のスキャンで複数種類の画像を再構成することができるので、検査時間が短縮されます。

5 急性期脳梗等の治療方針決定に有用な「ASL」※

当院で症例が多い急性期脳卒中に対して、非常に有用な「ASL」の画像が優れている機種を選定しましたので、救急への対応に関しても強化が期待されます。

※ASLとは…薬を使わないでできる脳血流検査

様々な症例や健診に対してさらに幅広く対応が可能になり、しかも短時間で精度の高い検査が出来ますので、今以上に安心して優しい医療を提供できるものと思います。

入院患者様限定

無料Wi-Fiが使えます!!

2023年3月より入院患者様向けの無料Wi-Fiサービスを開始します。ご入院が決まり、サービスをご希望される方は**病棟事務**にご相談ください。



【注意事項】ご利用にあたっては、当院の利用規約に同意して頂く必要があります。